

三市町村と関係機関連携による 在宅医療体制構築までの過程

～須坂市・小布施町・高山村～

須坂



須坂市健康福祉部 健康づくり課
地域医療福祉ネットワーク推進室
樽井 寛美

平成25年6月28日市町村セミナー

1 三市町村連携体制

(1) 須坂市・小布施町・高山村の位置



平成24年10月現在

	人口	世帯数
須坂市	52,591人	19,239世帯
小布施町	11,412人	3,715世帯
高山村	7,571人	2,386世帯
合計	71,574人	25,340世帯

平成23年12月末現在

	高齢化率
須坂市	26.6%
小布施町	27.7%
高山村	26.3%

三師会も須高
地域をエリア
としている。
関係が良い

(2) 須高地域(須坂市・小布施町・高山村)の強味

強味を活かす!

- ◆三市町村は昔からつながりが強い地域
- ◆三師会も須高地域をエリアとしている
- ◆医療機関
 - ・急性期病院: 県立須坂病院
 - ・回復期病院: 新生病院
 - ・慢性期病院: 轟病院
 - ・診療所 76 : 医科(48) 歯科(28)
- ◆調剤薬局 26

須坂



(3) 地域医療福祉ネットワーク推進室の設置

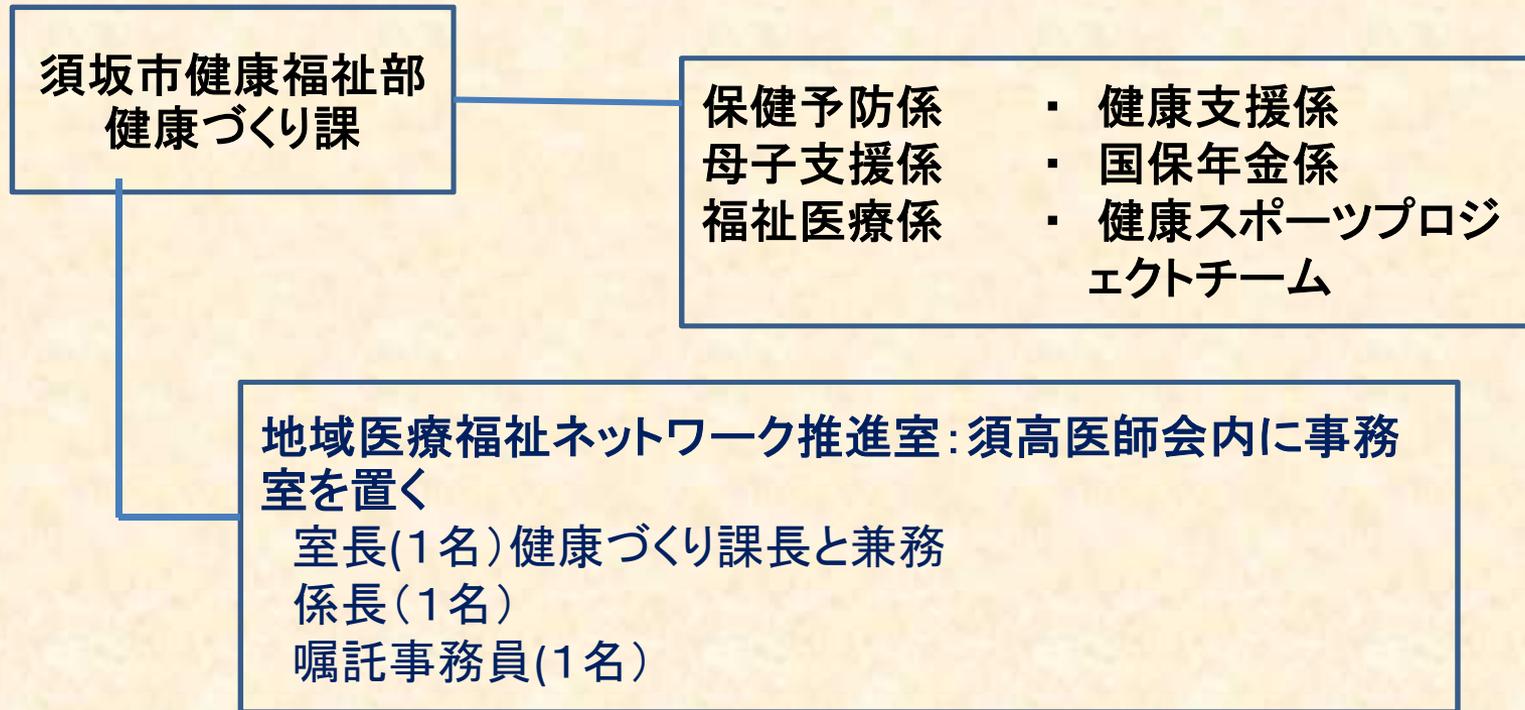
◆平成22年4月1日開設

◆須高地域が、将来に向けて住民の安心・安全を繋げる地域に発展するために三市町村が広域で共通課題解決に取り組む。

須 坂



(4) 組織位置づけ・予算



- 予算: 三市町村の人口割りの負担金による
- 年間予算額 約350万円

(5) 事務局として大切にしてきたこと

基本姿勢 住民の安心と安全は行政が責任を持つ

主語は住民のために

連 携 Win Winの関係

事業化 合意形成のプロセスが重要

事務局 課題の意識化・情報収集

2 在宅医療福祉の包括的取り組み

(1) 多職種による第2専門委員会の定例開催

◆平成22年度事業

①先進地視察：兵庫県立柏原病院

②「須高地域で安心して医療・介護を受けるために」の番組を作成・放映。（地元ケーブルテレビに依頼）番組をDVD化し、関係機関に配布しPRしてもらう。

③全国的取り組みの研修会参加により、財団の補助事業に申し込み。

◆平成23年度事業

①「須高地域で安心して医療・介護・福祉が受けられるために」の冊子を3,000部作成、住民へ配布。(財団の補助活用)

②須高地域医療福祉シンポジウムの開催

・参加者アンケートから、住民ニーズを委員会で共有。

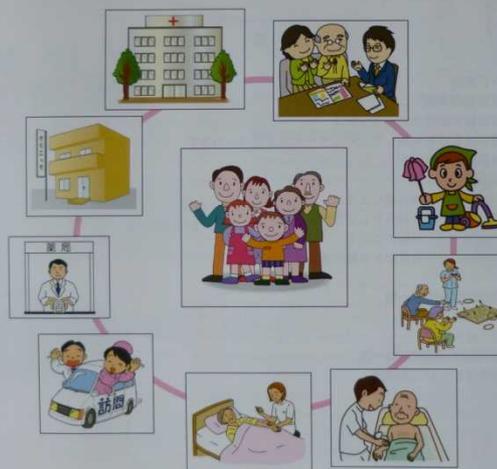
・委員からの発言『在宅で看取りができる地域にしよう』・在宅医療連携拠点事業に手上げとなる

財団の補助を受けて作成(60万円)

在宅療養の状況を住民に知らせよう



須高地域で安心して医療・介護・福祉
が受けられるために



須高地域医療福祉推進協議会
須坂市 小布施町 高山村

(2) 厚生労働省在宅医療連携拠点事業」により 体制構築(平成24年度)

- ① **多職種連携**・・・2人の推進員が中心になり、病院の退院前カンファレンス等に参加。
- ② 在宅医療に関する**地域住民への普及啓発**
- ③ 在宅医療従事者の**負担軽減の支援**
三師会・三病院・訪問看護ステーション・
三市町村等で関係者会議を設置し取り組む。
- ④ **災害発生への対応**。

②一人ひとりが望む最期を支えるために リビング・ウィルの文化を育もう



須高地域統一の「終末期医療・ケアについての生前の意思表示」書の作成

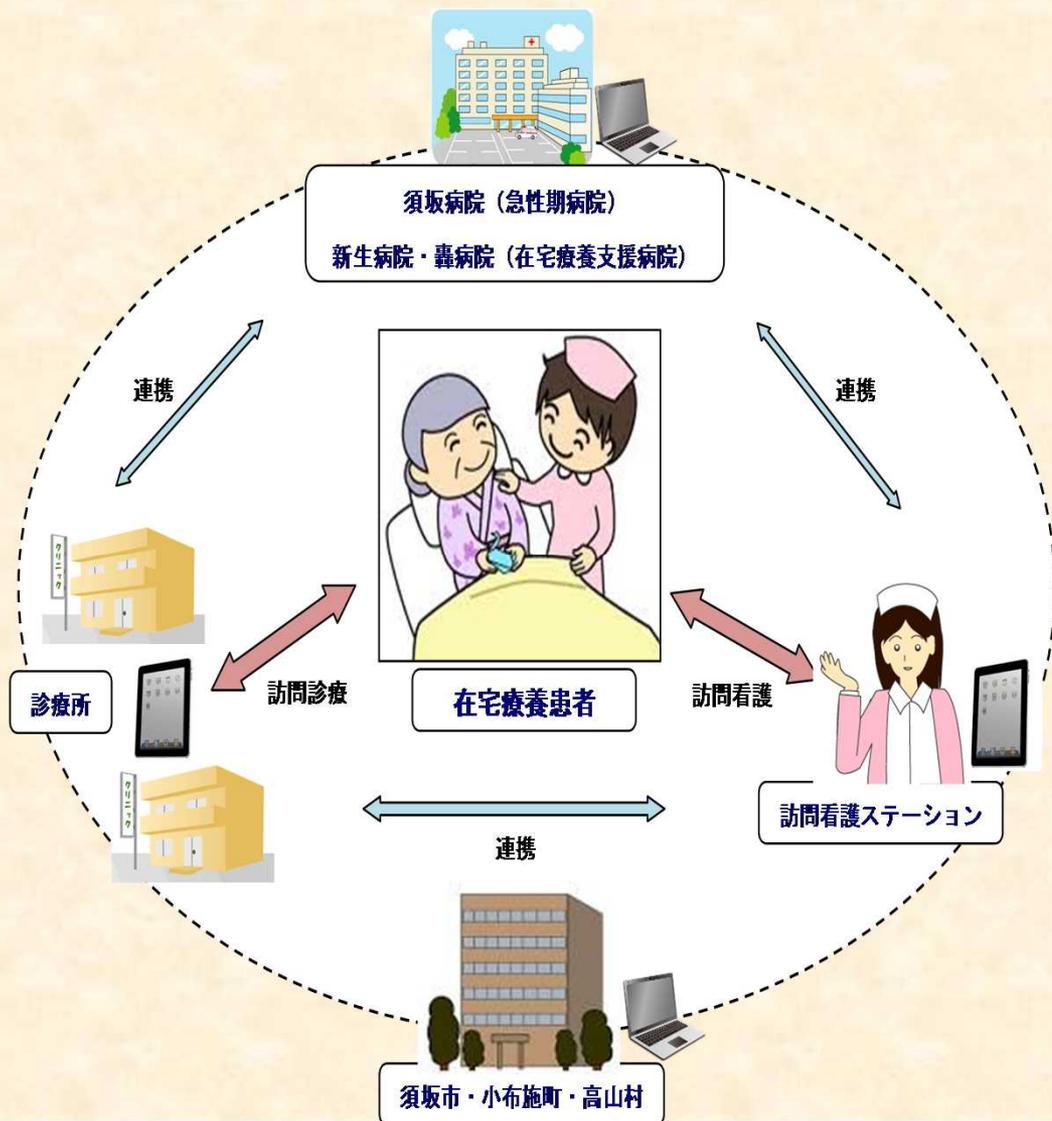


住民からの問い合わせが多い状況

看取りに関する共有認識を持つためのパンフレット作成



③医師会・三病院・訪問看護ステーション・行政で 24時間サポート体制を構築した



★須高在宅ネットワーク：平時は主治医が治療にあたるが、緊急時は在宅療養支援病院と訪問看護ステーションが主治医とチームになって対応し、24時間体制で支える。

★在宅医療安心ネットワーク：チーム医療で24時間対応するため、システムを使って情報を共有する。

④ 災害発生時に備えた対応

医療ニーズが高い在宅療養者に発電機無料貸し出し

支援者の悩み

人工呼吸器を使っている人が、災害で停電になると命が危険だわ！
対策考えましょう

発電機10台購入
無料貸し出し



利用者の声

- ・停電になった時の対応が不安だったが、発電機があると安心。
- ・発電機は高額なので自分ではなかなか購入できなかった。
- ・燃料がカセットボンベなのが良い。ガソリンは備蓄が大変・・・

貸し出し者の状況(2月末)

- ・人工呼吸器使用者 2名
- ・常時痰の吸引を要する 2名

⑤ 保健・医療・福祉関係者の資質向上

◆地域内の介護施設における嚥下困難食形態の統一

病院栄養士の悩み：施設に退院してから食事形態がうまくいっているだろうか？

利用住民の困りごと：施設によって嚥下困難食の形態が違って困る。

地域内の医療・介護保険施設等の栄養職員の情報共有と研修会を実施した

ムース食・ソフト食・ペースト食・・・呼称も形態も施設により異なっている



研修会実施

摂食障害のある方への注意点

講師：県立須坂病院 言語聴覚士・摂食嚥下認定看護師

栄養士の感想：栄養士は一人職場なので、地域で情報共有や研修できる場があるとありがたい。

3 市町村の役割

住民の皆様の一番身近にいる存在

地域をみる

つなげる

動かす